

海外情報（毎日配信）

タイ 2016年07月26日（火）

【NNA】ソフトウェア開発を手掛けるエイビス（大分県大分市）は25日、介護の負担軽減を目的にした機器

「みまもりシステム」の実証実験をタイで開始したと発表した。海外での事業展開は初めて。

国際協力機構（JICA）の支援を受け、同日には事業のキックオフセミナーを開催。高齢化が進むタイで1年

をかけて実証実験を進め、向こう5年以内にタイで売上高5億円を目指す。



キックオフセミナーに参加したエイビスの吉武敏一社長（中央）

=25日、サムットサコン県（NNA 撮影）

みまもりシステムはベッドのマットの下に敷かれた検知センサーで、高齢者の振動や圧力を感知、転倒や転落を予測し、介護者の携帯端末にアラームで知らせるシステム。バンコク西郊サムットサコン県のバンパエオ病院とバンコク東郊サムットプラカン県でタイ赤十字が運営する介護施設サワンカニウエートに導入する。エイビスからは施設に技術者を出張ベースで派遣し、システムの運営を支援していく。

エイビスの吉武俊一社長は「タイでも少子高齢化が進む中、今後さらに介護支援システムの需要が高まっていく」と指摘。2施設以外にも既に引き合いがあると明らかにした。

バンパエオ病院によると、タイの全人口に占める60歳以上の高齢者の割合は、2040年に3割以上に拡大する見込み。タイでは家族が自宅で介護することが一般的だったが、核家族化や共働き世帯の増加などの影響で、家族を中心とした介護体制の維持が懸念されている。

今回のプロジェクトは日本の中小企業が持つ技術や製品と、発展途上国の課題をマッチングさせるJICAの「中小企業海外展開支援事業」の一環。経費として上限3,000万円が支給される。